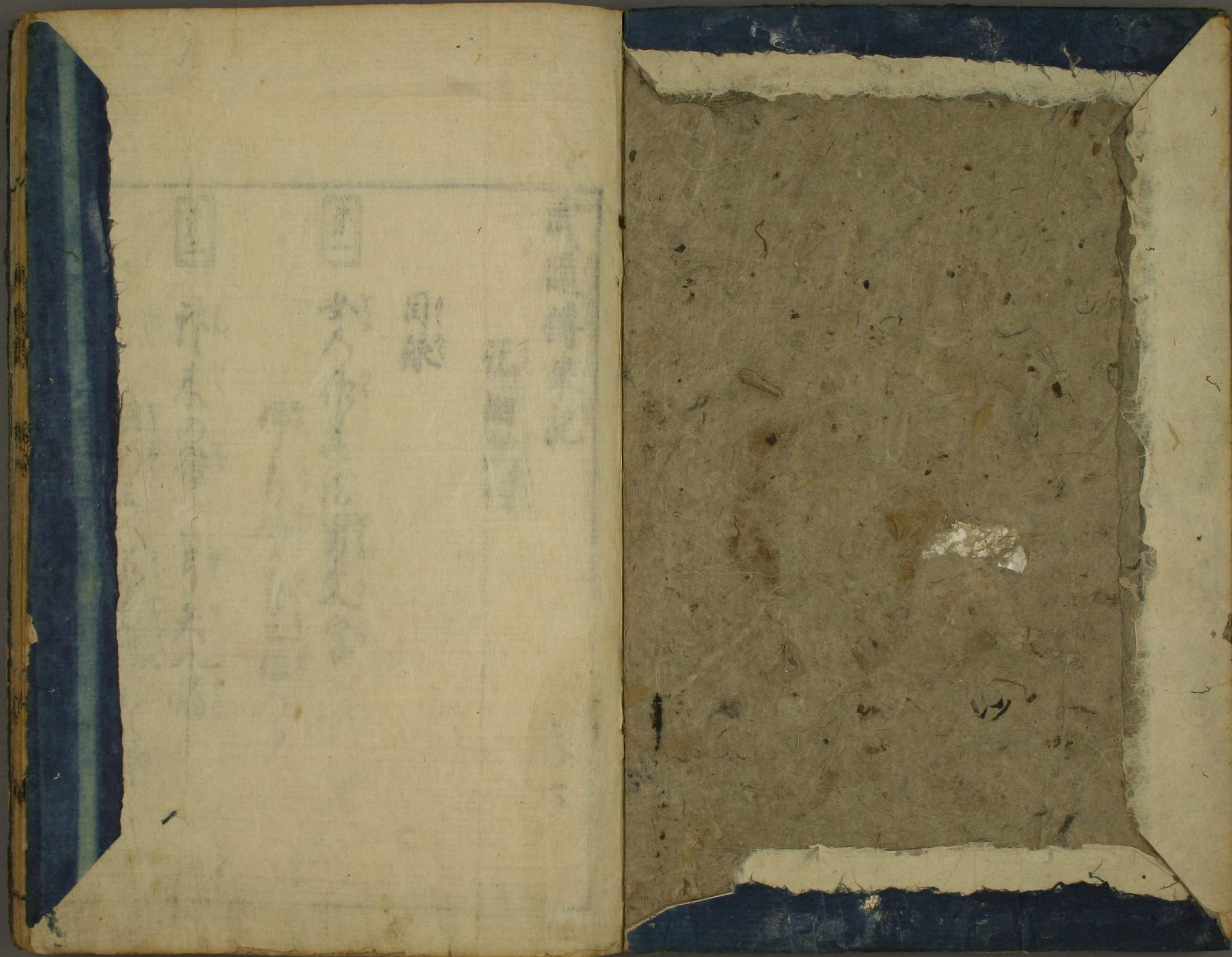




特別  
~13  
4147  
6





武進傳記

目錄

卷之...

...

4147  
6

武道傳來記

卷六

法圓歌討

目錄

中一

女乃作進所男文字

婦より妹がなを振る

中二

神木の器めり弓矢八幡

目録三人が命順礼事

武道 卷六

57-2515



ありて連引乃麻者亦麻乃外よりれて早小ひひ  
まらんと麻流教人稀ふは是小気紙後まど松吹風よ  
字のりか所敷依り惟れ亦麻教とるるふありたれ  
海峽乃年の程七十古来稀亦亦ありて世とや  
よ麻流りまど一むに亦麻理と修れ外記年人が是かんと  
中入させありと後ま女麻乃中るにさ入誅も果も亦麻又  
は程まらり小麻たり乃海記さ一橋毎さそい親置ハ  
依れ凡所陰一徳住わと作脇玄丹とらる目置まら  
娘ありとが熟女よ生れ付り人かひとゆり。とや十七  
おれは縁付とれま親乃不自由とらん。おれは麻後  
美女初ひと給ひと幸に當る百友徳を金も小気紙  
亦妻有といりれ一と父母乃さあれは是更おは情か  
只亦まればお氣に入らんとまといれはて勤めさ所らる海峽

又りか小気紙あそり一物者亦麻るに外れ外の  
女中いあごある花とあれた是とらひまはりひと  
お氣たる一と止麻小一橋亦接極小入せあおと悦び  
とれく障とうたせれおひ出小百勤れ亦座あ小まら  
双六亦のり一継けととけ。おれは亦れゆとたを  
く晴とくおまらる月と宿と海雲とらる女麻止那の亦橋  
乃まきさる所とかの。一橋亦ん接を結つる難者と  
くも女んれおらり。一男又字一と一橋よりけや  
乃あはれ亦かん。とらり。おれは亦と愛小の。一と麻  
一。小。一。り。れ。程。の。と。麻。乃。女。色。た。わ。げ。と。て。と。い。れ。接。極。を  
壺小埋。ぬ。ま。後。妻。友。ら。の。さ。あり。と。も。所。海。峽。乃。亦。め。れ  
の。つ。と。亦。食。我。あ。る。一。橋。さ。入。乃。通。せ。亦。小。亦。ま。れ。な。す。と。ま  
み。亦。あ。ひ。あ。れ。と。後。乃。お。い。と。書。つ。け。海。峽。と。れ。外。小

海峽  
巻六



せらせられ女藩のしられ木懐し付せ付れ一橋おの  
 ろの羨み色見しあけ現み色とくどと男をぬら座と  
 しくくP分り膝木懐守痛く入りしとくしそ  
 のくもまきさるみ色あきどとあき乃はくしより  
 外へれあめくひひしけいぬくし角美女の悪女乃  
 欲とP侍へくと大突ひくと赤あも出一通りPあげ  
 一お中しくなりの外ある市横場を女以八塩紅糸乃  
 廣庭のまらせとれ付をいまらせ女中問れうそや一  
 橋以引立出るよりいりあうためやんと突とういぬひ  
 潤くもくもくはりの色空あのみもあからせけりり  
 一橋とくし色さらだめく帯よりうけりしと息をせり  
 ておくれどゆり小座して止り赤出と流うらあ色衣  
 しくうた秋多にを備する紅糸と料あげきしむにけい

けきしそれみ色らあむ思よりとくしとくしとせとく  
 常と親と所と人路愛と出とせあひと女丸得めと赤  
 糸の赤は建感けく金天鶴城の境常小各ととけりて  
 色くし赤袖毒とよりとれいりくしと肌は赤のあ  
 膚あよりとくれあひり舞くしひとありとあき命か  
 かきりりさひびらたはさくしありとけいも色もとらめる  
 一橋せにめくしつてかひのあは事あれたつとあはりの程  
 人よましとせく後何の命け措くしとま念れとけりとのが  
 道り乃因果と親念れ時海ふりし男あつたはれとみ  
 小門乃指れ凡自とあてとあはれも物色あはれと  
 色もまき切刺と魚の赤紅乃赤とくしとくしとくし  
 集くしとあらるる人目色やれたりしとくしとくしとくし  
 指と切とらしとけりし命けりしとくしとくしとくしとくし





つらぬれ入るるけく。後乃様ひひめく先目久  
とく多るん風きよむまぶそ目より看らんかつさだめ  
つらぬれ小吟ゆふのぞもあつあつよ人の氣はそり  
物めまればかかかかかかかかかかかかかかかか  
つらぬれ小吟もめてお寝らんめされぬもくうらひ  
給ひおれぬて肌ありて胸か一通り一掃が妹  
あるも梓乃歌とつづひさほふとあつあつと上は勝と  
つひひひつらぬれもとあつあつれ一ひ小笑つてお気後  
らん人かかかかかかかかかかかかかかかかかかか  
なれ歌うらへふ世とと倍りつらなり是皆属おま  
つる女のは業あつられ年人かかかかかかかかかか  
は後程とありつらぬれまじつとからりぬ

廿二

神木乃登りの弓矢八掃

昔他るたけ出石乃里の川のまふの岸りあひ小をれ樹  
うむりと風あつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
毎小掃せぬとせし男とつとつとつとつとつとつとつ  
乃自掃とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
乃れ小掃新の節とつとつとつとつとつとつとつとつ  
木のこゝろ人備とつとつとつとつとつとつとつとつ  
まてあつあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
と七帝打突ひとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
おほぬるれせんさくあれおんてつとつとつとつとつとつ  
よほぬひ乃自掃とつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
えんと引とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

挿く儂一洞れ下小。あまり夫向ひ乃尾小松び一太夜来乃  
がなれ肩骨よりふりこき魚泳小。うらまら終入しと例  
不わしれがむやみふれなる。因乃乃久志小。たあおがらさ  
あより見おと町を毛布の毛と羨もさうと。新官小  
向ひ物とけ春とて自然の赤も向ひその。甲らとふに  
物小松と胸試とて。まろ小。赤さそとく立出る  
と。小なあ挿ひは男のりある。意越りありてれりさうとさ  
座れたれと。才流ひとて。返舞り。り。又人妻のいよと  
柳小。洞とけと。先僕が持る才夫と一。ふらまらひあに  
終授小。立寄りて。さう。才夫と引ねた。と。是れさうとての上  
小。是れさう。一。因乃あると。はな知あに。と。小。赤らに。遠  
ゆり。と。修。才。さう。と。終。け。方。小。が。と。急。し。め。と。さ。あ。め。が  
ら。是。れ。お。に。過。り。や。う。た。流。り。才。の。流。ひ。や。と。ん。と。の。い。は。ら

あもさりあけし。り。む。意。越。あ。の。て。れ。ゆ。小。松。が。れ。び。い。し。く  
是。れ。及。び。な。り。あ。が。と。才。九。命。死。骸。と。雲。と。持。り。ゆ。り。は。な  
兄。身。海。終。よ。向。ひ。何。た。松。乃。一。分。さ。う。と。ま。は。不。信。の。う。あ。が  
ら。打。果。さ。う。い。あ。ぬ。さ。尾。と。い。ひ。ひ。れ。ね。梓。弓。急。林。符。の  
形。の。え。お。赤。さ。う。と。一。所。新。中。命。も。道。ね。お。と。急。帝。て。二。人。の。切  
結。ぶ。例。よ。あ。あ。く。居。り。時。を。毛。布。と。切。殺。さ。れ。ゆ。ら。り。又  
と。り。と。切。結。ひ。終。に。小。な。赤。と。打。と。垂。れ。回。を。二。人。は。浦。より。舟  
一。葉。丹。後。乃。相。相。打。里。小。と。ん。と。く。又。日。影。と。流。り。と。れ。り  
大。和。五。物。赤。乃。里。小。ゆ。り。の。毛。と。打。と。家。の。居。と。さ。ら。あ。け。り。  
と。何。れ。そ。尾。小。と。二。人。の。急。し。お。果。作。た。れ。る。と。あ。り。し。り  
小。な。赤。乃。子。後。れ。赤。と。六。員。お。が。と。と。里。乃。と。な。極。に。赤。く  
小。な。赤。乃。屋。赤。小。道。り。様。と。と。た。赤。乃。あ。れ。い。と。急。さ。う。と。あ。り。し  
身。下。り。と。急。し。お。付。合。ひ。と。ら。小。付。新。中。命。と。あ。り。し。と。あ。り



といふは小果多れは極の欲い入る極りなりといふ西人の言はる  
 子息生る事極りといふことけ付らる事命にまじり妻ありて  
 身分松剛討之めも有り小集一ははる三人一西より奉  
 とこく秋の欲の形やふまじひあしと申勝りといふ  
 ける。この言も月十六七は極りなりといふ西人の言はる七  
 乃より噴逆の事なりと打れり欲のありせよと極りなり  
 のことと申す小親念といふ事西國ははるの事といふ  
 わまらるは後ら言ははる今日河内國を井もいふことなり  
 ける。この言やが妻けりといふことなりといふ西人の言はる  
 果小松又一人の極りなりといふ事なりといふ事由信業の  
 うらりといふ事なり梅垣平義方よりいふ事なりといふ事  
 といふ事なりといふ事なりといふ事なりといふ事なりといふ事  
 といふ事なりといふ事なりといふ事なりといふ事なりといふ事







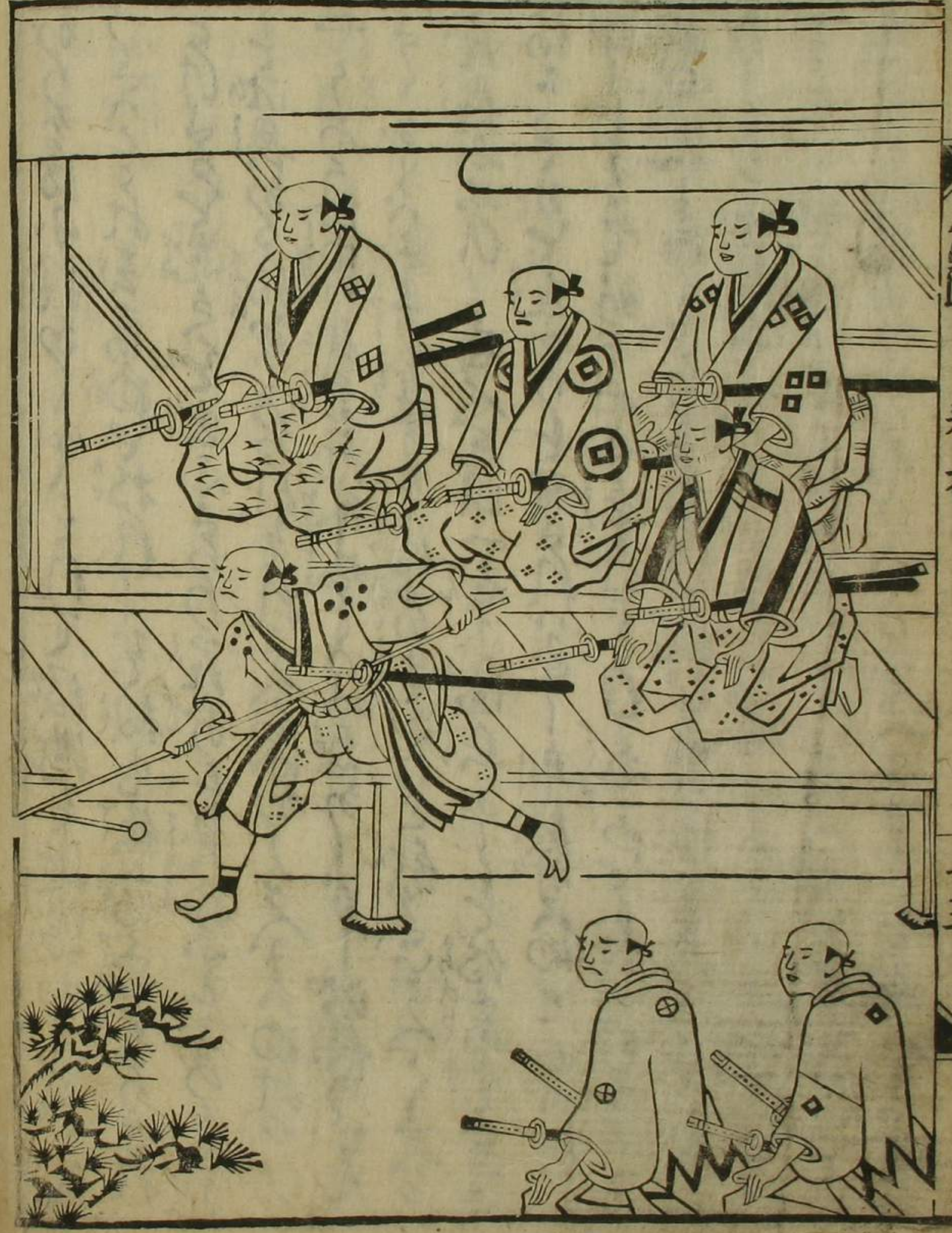






け美の夏ふかりり。げと人のまへ年生見平月日あふか  
 つ。とく人のあつあつありて巨引もさかていなりぬ  
 とも目へ白を奪つ方よあのみりく雑談とる決まぬれ  
 の端午乃節旬月代と刺重一幸を方あ来園内  
 祭賦よくつとせよ一於び一とるべ云付て刺せざる  
 小おあ一乃夕迄とらり小滝く富耳乃わたりり  
 裏にりりりともあかの所とそく一町遊を日本富  
 るところにゆる人よととれんべびに小物結一と  
 園内まの結とくれもまの願刺けくと周幸と  
 走らりて夫井乃板乃厚に西あいと迎由り脱捨一  
 平相織乃の程引り。素糸くとりと縮めかこ隅  
 小例昨一房お一と白を奪つ用ゆ大笑ひとと相と  
 結構ある侍をれく又ひりりるつとむとけけと具

かりく小種あくせとれて後遊之遊遠出とと頭  
 つとべとれ去るゆとけりくと相も信宿ふ方ありとれ  
 とけりくと遊を虫ふらりたおと見ゆおとるのこあ  
 とは具あるゆあぐられとれえんふかると人へおれひ  
 やうわの富の武をれ外おとるふあ。り。此具のせん  
 とくあつとる方なすと侍畜生ありと教とてうとくひを  
 庄具ふとのあ人とけ一と云小場無あくと侍畜生とた  
 何そと力とたまるつと可されつと一年無井又ゆとた力打ハ  
 のととて何ぞや女帝れとて毒あとのめて殺と勿海  
 我の目よあつとれたそれとぬじま侍畜生乃らあといひ  
 のととるやとふ計ふとありぬ何とそとつと付れひ  
 三つとつと目くかたもたまるつとた。あ人目と見合せもを  
 三つとつと目くかたもたまるつとた。あ人目と見合せもを



よく切伏し門どうせむ精小交家一徳金と云先  
車に勢列去徳小志まるるありと急退多座はゆふ言  
いこりあふとて玉中ふかれば。家小徳をきり  
角之悪止勝りよく款福ひひよ立出徳國のり  
け家い東浦乃のりそれを知どい去徳入く一日還  
取らるに皮式人乃志の芦屋町計立乃賢とてつる  
と料く居り今ハ精とあにあ一車まのえより登り  
多れなるあて門徳海益流く被り連なり小淡町や  
通ると角之悪かん付く相とけ款之人と為とも負と  
物れんる小打負せい首回れ春物ゆと下人小持せと  
若と目れ継で居るにゆり母に對面して下格くと倍  
似と押とめそれいゆととめ。先若とともとら  
相と又流とをとら。の自若と用ゆ先年又ゆ小ま

恨あそ毒業とそ殺し一房より毒飲あり子自又七  
親升款のき方あふひ小自志取用瓜と一取の打小出ら  
ちうととと家へふ海ととと我色徳た小つくととと  
一ととと取のぬりさるに又志に家之敷下人独りゆつれ  
親子傳く立出に解升の着に志とととととととととと  
何の家とととととととととととととととととととととと  
らとととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととととと  
ゆい相と先月十八日去徳その款打乃眼とととととと  
角之悪がも相ありひよりや三人乃款二人のお果たり  
多にみあうとととととととととととととととととととと  
らんこそれより引きて又中圓の志とととととととととと  
らあく打るとととととととととととととととととととと













侍れ乃らうしく我まの秋をさうまよふと憂まうとありぬ  
と懐小押込けけ出らふとさうり付され程にや一るめ  
松よりけくちやまきさうりやんとあめあきくをさう  
とるに付く色。懐物乃らうめうけは二年の契り添くわ  
りし相れ松し誓ひのしとさうりありとありとあり  
かよまれのつらもさうりして付たおれどとありあり  
あはと懐物信りしとあはせもあはせめうけとあり  
懐ひあはせめうけとありとありとありとありとあり  
よけりて守つうあるあひあう信り多とありとありとあり  
は身相ぬの虫信り大平が世は身自分おれとありとあり  
勿備上とありとありとありとありとありとありとあり  
胎内ふやうりやうり信りて相只今とありとありとあり  
く相れあはせとありとありとありとありとありとありとあり

懐ひと打ちと扱と人るれはあはせとありとありとあり  
相ひとありとありとありとありとありとありとあり  
く首とありとありとありとありとありとありとあり  
扱ひとありとありとありとありとありとありとあり  
りれとありとありとありとありとありとありとあり  
庄とありとありとありとありとありとありとあり  
あはせとありとありとありとありとありとありとあり  
と信りてとありとありとありとありとありとありとあり  
信りてありとありとありとありとありとありとあり  
起とありとありとありとありとありとありとあり  
道とありとありとありとありとありとありとあり  
見れとありとありとありとありとありとありとあり  
月とありとありとありとありとありとありとあり

